

進路指導室へようこそ 3

前橋女子高校進路指導部

令和7年度 MJ 進路通信 第4号

令和7年4月18日（金）発行

■各学年集会で話したこと

この1週間の間に、それぞれの学年の集会にお邪魔させていただき、前女での学習や MJ キャリアプラスについて話をさせていただきました。1年間の生活にあたり、是非心に留めてほしい話をしたつもりです。ご家庭での話題として共有してほしい情報もありますので、それぞれの学年で話した概要についてまとめてみました。



1 学年（新入生ガイダンスにて）

・進路指導部の仕事は？

学年団と協力して、皆さんの進路実現のサポートを、特に学習面や情報面で行う仕事です
進路指導室に来てみよう・・・進路指導室は進路情報の宝庫です

・前女での学習について

「高校の勉強は、難しい？」

もちろん中学校の比ではない。だけど、新しいことを知る面白さも中学校の比ではない。「面白さ」を知るにはそれなりの苦労や努力が必要だが、もしかしたら自分の将来の仕事を決めるような出会いもあるかもしれない。ここにいる先生方はその面白さを知っている人たちです。

「赤点とったら、どうしよう！」

過剰に心配する必要はない。大切なのは

「簡単に授業を休まない（健康管理）」「授業を真剣に受ける（寝ない）」「分からなかったら聞く」

この3つが実践できれば、成績に関しては心配するような状況にはなりません。意外に前女生が苦手なのが「分からなかったら聞く」こと。自分の疑問を言語化して伝えることはどの教科にも通じる大切な訓練です。

「人間としての器を大きく」

勉強だけでなく、部活や行事、委員会などいろんなことに取り組むことで、人としての器を大きくする。器を大きくしてからでないと、いくら知識を詰め込んでもすぐにいっぱいになってしまう。

・こんなこと、心配じゃない？

①周りの人が皆頭よさそうに見える・・・人と比べる必要はありません。「みんなちがって、みんないい」

②宿題がたくさん出るの？・・・完璧に仕上げようとしてはいけません

③部活をやると、勉強に支障が出る？・・・むしろ逆です。部活はやったほうがいい。

部活のメリットは「集中力を鍛えることができる」「計画性を身につけることができる」「先輩との交流を通じていろいろな情報を得ることができる」こと。この経験は受験期に必ず役に立ちます。目先の不安や周囲からの脅かし(?)を真に受けてはいけません。

④塾に行った方がいいの？・・・まずは前女の生活や授業に慣れることが優先です

塾に行こうかまだ迷っている人は慌てて決める必要はない。まず前女の生活をしっかり過ごしてみて、「塾に通う時間的余裕があるか」と「本当に自分に向いている塾なのか」を見極める時間が必要（塾とのミスマッチも結構ある）。一番の失敗例は、学校の勉強と塾の膨大な課題に挟まれてどちらも消化不良になってしまうこと。そうになると、塾に行くことがかえって大きなマイナスになる。分からないことを減らそうと思って塾に行ったら分からないことを倍にしてしまった、ということもよくある。



2 学年（キャリアプラス説明会）

・2年生は、「大きな変化（≡飛躍）」の1年

3年間で一番「変化」を自覚すべき時期。自覚と準備が早いほど目標実現の可能性は高まる

・いつ、「受験生」になるのか？何をすれば「受験生」になったといえるのか？

「自分の目標をしっかりと見定め、今までいい加減に取り組んできたことをきちんと計画的に取り組むことができるようになった状態」・・・決断を先延ばしにせずアンテナを高く張ってさまざまな学びに向き合ってほしい

- ・受験で上手くいった生徒と、そうでなかった生徒は、何が違うのか（昨年度の卒業生の様子から）
 - ①選択肢を複数用意している（夢への道のりは一通りではないことを自覚している）
 - ②耳の痛いアドバイスにも聞く耳がもてる
 - ③自分の現状を自覚し、背伸びせず地道な努力ができる
- ・MJ キャリアプラスの活動をどう活かすか

「IQ<EQ」の時代・・・獲得した知識の量で評価される時代ではなくなった

→主体的に学びに向き合い、そこでどんなふうに心を揺さぶられたかが評価されるようになった

「志願理由書に書く材料がありません」・・・SS レクチャー、資格試験、科学的探究など

→前女にはそのための材料がたくさん落ちています

「OG の先輩を活用しよう」・・・TEAM-OG（前女でしか成立しないプロジェクト）

Serendipity（セレンディピティ）
 偶然の出会いから思いもかけぬ幸運に恵まれること。
 セレンディピティは自然に訪れるものではなく、偏見や思い込みのない自由な心で初めて掴み取ることができるもの。これから始められる新しい生活は、様々な出会いに満ちている。それが初めて会う人であれ、書物や特定の出来事であれ、先入観に捉われることなく恐れずに向かって行き、一人ひとりにとってのセレンディピティを掴んでほしい。（京都大学入学式式辞抜粋）

3学年（キャリアプラス説明会）

- ・君たちは今、何のために勉強するのか？
 - ・・・「志望校に合格するため」それが No.1 なら寂しい（動機づけのベクトルが自分にしか向いていない）
- ・ベクトルが自分にしか向いていないと、受験を意識したときに視野が狭くなることがある

例えば「アドバイスに耳を貸さない」「受験に不要な科目に露骨に手を抜く」（こういう人は伸びないことを先生方は経験的に知っている）
- ・勉強する目的は「世のため人のため貢献できる人になること」（こういう人が伸びることも先生方は経験的に知っている）。受験期だからこそ、「何のために学ぶのか」を常に自分自身に問いかけてほしい。
- ・受験期は、人生のなかで極めて「幸せな」時間

受験期は「自分の夢があって、自分の夢のために勉強ができて、周囲が無条件に自分の事を応援してくれる」ととても幸せな期間。だからこそ、受験が終わったら、社会や家族に恩返しをする、という目線は絶対に必要。
- ・昨年度の卒業生の様子から

浪人生が例年より多く（全国的な傾向でもあるが）、自分のやりたいことに拘った生徒の多い学年だった。

選択の余地なく浪人となった生徒も一定数いる（非常に心配される）。

上手くいった人とそうでなかった人の違いは？

 - ①選択肢を複数用意している（夢への道のりは一通りではないことを自覚している）
 - ②耳の痛いアドバイスにも聞く耳がもてる
 - ③自分の現状を自覚し、背伸びせず地道な努力ができる

特に皆さんには「聴く耳をもつ」ことを心掛けてほしい。入試の手続きや決断においてミスがあった生徒の多くは「人の話を聞いていなかった」人。1 日で一番大事な時間は朝の SHR です。
- ・皆さんは、まだまだ伸びます

一番伝えたいコト・・・先入観をもって「自分はせいぜいこの程度」と上限を勝手に設定しないでほしい
- ・今年の共通テストは、大きく変わります

出願が学校単位でなく、各自で web 出願となります。情報や説明をしっかりと聞いていないと手続きができないことがあります（先生方はチェックしてあげられません）。
- ・MJ キャリアプラスの活動をどう活かすか

毎年「志願理由書に書くネタがありません！！」と泣きついてくる生徒

今までの取り組みを洗い出し（今でもできることがあれば挑戦し・・・英検など）、今のうちから「何をアピールするか」をしっかりと整理しておいた方がいい。